

## 令和7年度全国学力・学習状況調査に関する分析

### 【国語に関する調査の分析・改善方法について】

ほぼすべての項目で県内・全国平均並みである。「言葉の特徴や使い方に関する事項」は秀でているため継続していきたい。課題は、昨年度と同様記述式である。読み取ったことを踏まえ、自分の考えをまとめて文章にすることを、苦手ととらえず繰り返し練習させていく必要がある。

### 【数学に関する調査の分析・改善方法について】

ほとんどの項目で、県内、全国の平均を上回っており、バランスよく力を身につけることができていることがわかる。

数と式が県内、全国平均より下回っているため、どの項目にも関わる計算力を身につける必要がある。

### 【理科に関する調査の分析・改善方法について】

「エネルギー」、「地球」の領域が、県および全国の平均を上回っている。対して、記述式の問題に対する回答率が県や全国の平均より大きく下回っている。今後の課題は、記述式の問いに答えられるよう、自分の言葉で説明や解説ができるような力を身につける授業を展開していく必要がある。

### 【質問調査の結果に関する調査の分析・改善方法について】

・教科を中心とした学力・学習状況に関する質問については、概ね県や全国と似た傾向が見られる。「ICT 機器を活用して調べること、整理すること、発表することができると回答した生徒が県や全国の平均を大きく上回っている。日頃の授業での積極的な ICT 活用が生徒の自信に結びついていると考えられる。

・その他の学力・学習状況に関する質問についても、概ね県や全国と似た傾向が見られるが、「自分によいところがある」と感じている生徒の割合が県や全国の平均より大きく上回っている。昨年度は同じ質問の結果で県や全国の平均を下回っており、昨年度と比較すると大幅な上昇となった。また、「先生が自分のよいところを認めてくれている」と感じている生徒の割合が、県や全国の平均より大きく上回っていることから、教員のはたらきかけが生徒の自己有用感の醸成に繋がっていると考えられる。